

はなく、看護師や診療放射線技師、薬剤師がチームで診療する。女性会員の交流目的のなでしこの会は2011年に発足した。また、核医学診療に関与するあらゆる女性が参加する女性核医学診療従事者の会（WISNMMI）があり、医療関係者のみでなく企業の女性も参加して、日本核医学会なでしこの会と交流している。

なでしこの会での全国実態調査では、核医学診療に従事する女性の現状は、女性上司が多く、セクハラが少なく、上手に育休を取得して子どもの人数が多い人の割合が高く、働く環境は整備されていた。育休の取得がキャリアの妨げにならないと女性自らが思うことができる環境整備と、介護担当者予備軍への先輩からのアドバイスや交流のための環境整備が課題であり、核医学診療のさらなる発展と核医学検査・治療を受ける患者のために今後も貢献していきたいと結ばれた。

『川崎市における医師会と行政の連携による病児保育施設の開設と運営』

神奈川県医師会 片岡 正
(川崎市医師会副会長)

川崎市における医師会と行政の連携による病児保育施設の開設と運営について報告があった。最初、医師会役員が交代で診察するテストケースとして、多摩区において1996年に市医師会の保育園部会長の医師が自分の施設に併設して事業を開始、その後医師会の委託事業として運営。平成30年4月から運営形態を変更し、新設保育園を運営する社会福祉法人を設立して、病児・病後児保育施設は、地域医療介護総合確保基金（医療分）を活用して開設している。現在は、4カ所の病児保育所、3カ所の病後児保育所を有している。

病児保育施設の問題点としては、女性医師の働き方に対応した受け入れができていないこと、前日はキャンセル待ちがあっても、当日は定員に満たないことがあること、キャンセルを見越した予約システムが望まれることを挙げられた。

『山口県医師会の試み』

山口県医師会 今村 孝子
(山口県医師会副会長)

平成21年9月から設置している「山口県医師会保育サポーターバンク」について、相談者が男性や開業医が増加し希望するサポート内容に変化が出てきており、サポーターの高齢化などもあり医師のニーズに合った支援と事業継続に向けた改善策を模索中であると報告があった。保育サポートバンクは、事業開始から10年が経過し、希望するサポート内容は、保育支援より家事や送迎などの支援が増えている。仕事を有する保育サポーターも増加し、医師のニーズに合っているかが悩みである。サポーターも高齢化しており、車での送迎や突発時の対応が困難となっている。しかしながら、地域医療の維持・充実には医師確保が必須であり、医師が安心して働くための支援は必要である。

また、女子医学生インターンシップ事業については、学生の満足度の高い事業であり、今後も継続したいと報告があった。

その後、女性医師支援、女性研究者の支援、再研修支援施設の登録、働き方改革など幅広く、質疑応答があり、最後に参議院議員・自見はなこ厚生労働大臣政務官から、最近の議員活動報告を交えて、小児科医師として女性医師のキャリアアップの問題などの総括があった。



北海道医師会

医師キャリアサポート相談窓口

Career Support

ドクターの人生に寄り添い、希望にかなう働き方を全力応援！

- 就業・復職サポート**
医師としての復職、キャリア継続をめざす方へ
- セカンドキャリアサポート**
定年退職後も生涯現役でいたい方へ
- 育児サポート**
仕事と子育ての両立をめざす方へ
- 介護サポート**
家族の介護に支援を求め方へ

ご相談はこちら

0120-112-500 受付時間 月～金9:00～17:00

FAX: 011-231-7272 mail: josei-dr-shien@m.douj.jp

◎詳しくは専用ホームページをご覧ください
<http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>
 北海道医師会 医師キャリアサポート相談窓口
 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会